海の学び ミュージアムサポート
Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

真鶴町立遠藤貝類博物館

真鶴町立遠藤貝類博物館「海の学校」事業 機能強化

実施期間：2019年4月25日（木）～2020年3月31日（火）

【事業の内容・目的】

- 真鶴町立遠藤貝類博物館では、真鶴半島の豊かな自然を活かし、小中学校などを対象にした海の体験学習プログラム「海の学校」を実施している。
- 本年度事業では、出前授業により「海の学校」の事前・事後学習を実施し、各学校現場における海の学びを深める。
- 地元の小中学校とは連携を推進し、出前授業の柔軟な運用により、地域の自然を活かした独自性の高い海の学びを実現する。
- 「海の学校」で使用する教材を刷新し、海洋ゴミなどの内容を盛り込み、海での体験とグローバルな問題を結びつける。
- 室内プログラムのクオリティ向上のため設備の充実を図り、また、広報による周知を強化することで、より多くの人に海の学びを提供する。
- 「海の学校＋出前授業」を学習モデルとして確立し、学校側が利用しやすくすることで、学校現場における主体的な海の学びを促す。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

活動の様子

１．「海の学び」の拡大～「海の学校」出前授業～

a. 「海の学校」出前授業の実施

【開催日時】2019 年５月７日（火）～ 2019 年９月 19 日（木）
【開催場所】小田原市立三の丸小学校、大井町立相和小学校、茅ヶ崎市立鶴が台中学校、藤沢市立滝の沢小学校、田園調布学園中等部、旭丘高校
【参加者数】798 人
【活動内容・目的】
●遠藤貝類博物館の海の体験学習プログラム「海の学校」を利用する小中学校のうち、希望する学校に、「海の学校」事前・事後の出前授業を実施し、学習内容を深めるとともに、各学校における海の学びを促した。

b. 地域の特性を活かした「海の授業」の実施

【開催日時】2019 年５月 15 日（水）～ 2020 年2月 21 日（金）
【開催場所】真鶴町立まなづる小学校、真鶴町立真鶴中学校、湯河原町立湯河原小学校
【参加者数】467 人
【活動内容・目的】
●真鶴町と湯河原町の学校に対しては、「海の学校」の事前事後に限定せずに、教員からの要請やこちらからの提案に応じて出前授業を実施し、地域の財産である海を活かした特色ある教育の実現を目指した。

c. 「海の授業」のための教員研修の開催

【開催日時】2019 年８月 29 日（木）
【開催場所】真鶴町立遠藤貝類博物館、真鶴町三ツ石海岸
【参加者数】６人
【活動内容・目的】
●上記の「海の授業」を積極的かつ有効に利用してもらうため、真鶴町の教員を対象に研修会を実施した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

a. 「海の学校」出前授業の実施

「海の学校」の事前・事後に出前授業を実施した。事前学習では、海の基礎知識や磯で見られる生物について紹介し、こどもたちのやる気を高めた。事後学習では、野外活動の振り返りを中心に、地域の海と真鶴の海との比較や、海の環境問題、海と山とのつながりなど、学校側と事前に協議した内容も扱い、海の学びを深めた。事前・事後学習により、「海の学校」の内容を１日限りの体験で終わらせず、さらなる学習へと発展させることができた。出前授業という形をとることで、学校だけでは取り組みが難しい海の学習への敷居を下げ、各学校の自発的な海の学びの活用に寄与した。

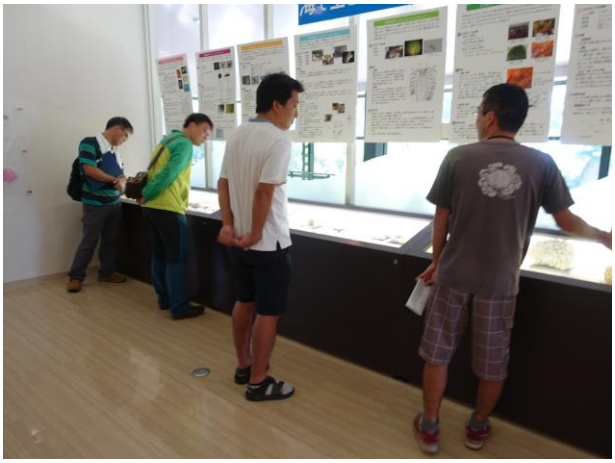
b. 地域の特性を活かした「海の授業」の実施

まなづる小学校、真鶴中学校、湯河原小学校では、「海の学校」の事前事後に限らない出前授業を実施した。特にまなづる小学校では、先生方と協議の上、各学年の発達段階に合わせたテーマを「海の学校」に盛り込み、必要に応じて授業を行なった。２年生と４年生では教育指導要領の内容を海の題材を用いて実施し、真鶴の特性を活かした教育を実現した。

2019 年度まなづる小学校各学年での「海の授業」

１年生　磯の生物観察を通じ海に親しむ
２年生　磯の生物の飼育観察
３年生　町の海に関する疑問調べ、学習発表会での発表
４年生　磯の生物調べ、学習発表会での発表
６年生　プランクトン観察を通じ海の生態系と漁業を学ぶ
*5 年生は実施なし

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



c.　「海の授業」のための教員研修の開催

上記の「海の授業」の発展と積極的な利用のため、まなづる小中学校の教員（特に新任教員）を対象に研修会を開催した。当日は、まず室内講義で、真鶴の海の特徴、博物館の活動、これまでに取り組んできた海の授業の具体例などを説明し、意見交換を行なった後、磯に出て「海の学校」と同じ生物観察を体験してもらった。

【参加者の声】

○野外で自分の力で生き物を見つけ出し、それをリストにして数えることで、その多様さを強く実感することができたと思う。

○事前事後授業があったおかげで、こどもたちが海や生き物に愛着を持つことにつなげられたと思う。

○生徒が自身で考えてアイデアを出して、それを発表していたことが良かった。

○私たち教員が考えるより、こどもたちは海のことが好きなんだということがわかった。海がある町に暮らす地元の一員として、もっと町の活動を知る必要があると感じた。

○海が魅力的な教材になりえることを知った。

○海にいるたった一時間の間に、初めは触れなかった生き物に触ることができるようになるなど、こどもたちに顕著な変化（成長）が見られた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

２．学校団体向けプログラム「海の学校」の実施・発展・受け入れ体制強化

【開催日時】2019 年４月 25 日（木）～2019 年 11 月８日（金）
【開催場所】真鶴町立遠藤貝類博物館、真鶴町三ツ石海岸、真鶴半島の照葉樹林（お林）、真鶴町大ヶ窪海岸、横浜国立大学臨海環境センター
【参加者数】1707 人
【活動内容・目的】

●海の自然体験学習プログラム「海の学校」として、主に小中学校を対象に、磯の生物観察、プランクトン観察、ビーチコーミング、お林散策などを実施し、海の学びを深めた。

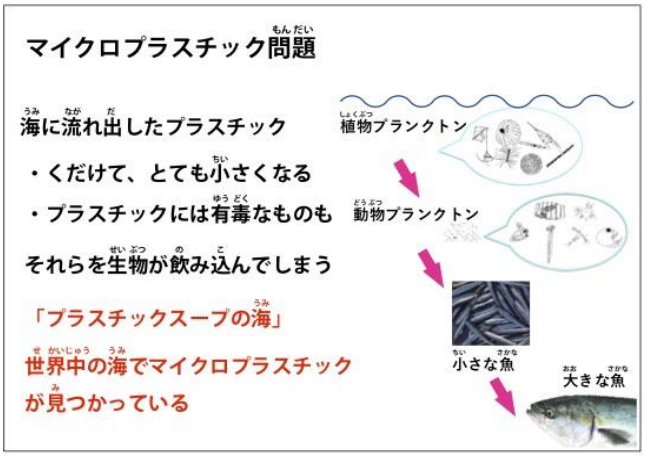
●これまで使用してきた教材を見直し、海洋プラスチック問題などの最新かつグローバルな内容を取り入れ、海での体験をより広い視野での学びにつなげた。

●レクチャー設備の充実により室内プログラムの質を向上させ、また受け入れ可能人数を増やし、「海の学校」の利便性を高めた。

●ホームページの開設、チラシの作成と配布により「海の学校」の周知を図るとともに、各学校の学習カリキュラムに海の学びを取り入れやすくした。

真鶴に訪れた小中学校など 36 団体に、自然観察を指導するプログラム「海の学校」を実施した。内容は主に磯の生物観察で（30 件）、天候不良時や冬季、または要望に合わせて、プランクトン観察（８件）、ビーチコーミング（３件）、お林散策（２件）も指導した（団体により内容の重複あり）。「海の学校」では、自由観察を始める前に説明の時間を設け、野外における諸注意に加えて、海の環境や人間生活との繋がりなどについても説明し、参加者の興味を引き出し、学習視野を広げることを心がけた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



近年のSDGs運動の高まりを受けて、「海の学校」の参加者からも、グローバルな海の話題に関する質問を受ける機会が増加した。そこで、「海の学校」で使用している解説用の教材（A3サイズのパネル）の内容を見直し、近年大きな話題になっている海洋プラスチック問題を盛り込み、合わせて海の環境や野外活動における注意事項のパネルも刷新した。海洋プラスチックについては教員からの解説リクエストが多く、「海の学校」当日に一度話題に触れることで、各学校での振り返り授業で、体験に基づくより深い学習を展開しやすくした。

光学顕微鏡と長机の台数を増やし、最大40名（1クラス相当）で同時にプランクトン観察ができる体制を整備した。雨天時の代替プログラムとしても提案しやすくなり、「海の学校」の利便性を向上させることができた。

「海の学校」のチラシとパンフレットを作成・配布し、周知と利用団体の増加を図った。また、ホームページを整備した。これまで「海の学校」に参加した教員から、学校教育の現場に海の学びをもっと取り入れたいという声をいただくことがあった。これらの資料は、学内会議などで「海の学校」の利用を発案する際に役立てていただくことを想定しており、各学校における海の学びカリキュラム発展の一助としたい。

【参加者の声】

○こどもたちが海の生き物の多様性を実感していた。
○学校の授業でも自然や海に関する内容を増やすべきだと思った。
○海はとても魅力的な教材になりえる。
○生物多様性を学ぶことは、社会の多様性を学ぶ教材としてもいかせるのではないか？
○森と海との関係について知りたくなった。
○海を大切にする心を持つことは大事だと痛感した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【事業全体のまとめ】

今年度は 36 団体 1,707 名が「海の学校」を利用した。このうち９校（7 市町村、1,265 名）には出前授業による事前事後学習を実施し、「海の学校」での自然体験を発展学習につなげることができた。地域の小中学校とは連携を強め、特にまなづる小学校では、学年ごとに発達段階に合わせた海の学びのテーマを設定し、出前授業を先生方の要望に応じて柔軟に運用した結果、町の自然を活かした学習効果の高いプログラムを実施できた。まなづる小学校での取り組みは、今後、体系化を進め、海の学びのモデル事例としたい。

本年度は助成を活用して「海の学校」設備を充当し、プログラムの質を向上させるとともに、受け入れ可能な人数を増加させたことで、本事業の利便性を高めることができた。また、広報チラシやホームページを作成して周知の拡大を実現し、より多くの人に海の学びを浸透させることに寄与した。

本年度事業により、「海の学校」を出前授業により発展させ、海の学習モデルに昇華させる道筋が見えてきた。今後、学校側がより主体的に海の学びを展開できるよう、学校側が利用しやすいプログラムを整備したい。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
１．真鶴町教育委員会	海の学校の利用、実施体制の整備、広報
２．湯河原町教育委員会	海の学校の利用
３．横浜国立大学臨海環境センター	施設の提供、講師の派遣
４．特定非営利活動法人ディスカバーブルー	事業の立案、実施体制の整備、業務の委託

※主に教育機関や地域団体、他館などを中心に記載。表が不足する場合等は適宜増減すること

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
１．湯河原新聞	潮溜まり…生物の宝庫（2019 年６月７日）

※TV・新聞・雑誌等、主なものを中心に記載。表が不足する場合等は適宜増減すること

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。